

後期募集
(第2回)

平成22年度 エコシップ・モーダルシフト事業 優良事業者の募集

大量輸送が可能な海運への「モーダルシフト」により、トラック輸送に対してCO₂排出量を1/3~1/5に削減することが可能となります。地球に優しいモーダルシフトを進めていくために昨年からはじめた「エコシップマーク認定制度」は、環境に優しい海上輸送を一定以上の割合で利用いただいた荷主企業や物流企業に、商品や、カタログ、車体等に「エコシップマーク」の使用を認定するものです。平成21年度の海上輸送へのモーダルシフトに貢献する荷主企業および物流事業者を募集いたします。詳細は裏面をご覧ください。



募集期間

平成22年度 後期募集(第2回)
2010年9月1日~2010年10月15日

国土交通省海事局

エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会
<http://www.ecoship.jp>

エコシップマーク認定制度について



エコシップマーク®

エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会では、平成21年10月に平成21年度「エコシップマーク認定事業者」を決定。認定企業は自動車会社や流通業、食品など荷主15者・物流事業者17者の計32者。平成20年度認定者は25者。

平成21年11月27日(金)、海運クラブ(東京、千代田区)において、地球環境にやさしい海上貨物輸送を積極的に利用して、輸送の効率

化及び環境負荷の低減等を目指すエコシップ・モーダルシフト事業の推進に顕著な功績があった事業者、荷主15者・物流事業者17者の計32者に対して国土交通省海事局長表彰を行いました。



平成21年度 エコシップ認定制度 受賞者の皆様



国土交通省海事局長賞授賞式



表彰式風景

海上輸送サービスの特性

1. 省エネ効果

- ・京都議定書の発効により、地球温暖化対策が急務となっており、陸上輸送から海上輸送へモーダルシフトを強力に推進する必要があります。
- ・フェリー、RORO船等の国内海上輸送は、**低エネルギー消費**、**低CO₂排出**の環境にやさしい輸送モードです。(1トンの貨物を1km輸送したときに排出するCO₂の量はトラック輸送に対して1/4)

2. 定時性

- ・全国の主要な都市の間で、定期運航を行っています。
- ・運航の**定時性が確保**されており、**遅延率も低い水準**です。(30分以上の平均遅延率：瀬戸内海航路はわずか**1.3%**、太平洋等長距離航路でも**6.6%**)
- ・台風等の異常荒天時を除き、**殆ど欠航はありません**。(平均欠航率：瀬戸内海航路はわずか**1.0%**、太平洋等長距離航路でも**2.3%**)
- ・万一、欠航する場合には、利用者への**事前連絡**を行っています。(原則、朝便は前日中、夜便は当日午前中までに利用者へ連絡、航海中遅延の場合も連絡)

3. 柔軟性

- ・輸送単位は、軽トラックから大型トレーラまで、また12フィートから40フィートコンテナまで**様々な種類の貨物の積載が可能**です。
- ・船内に電源プラグも備え付けられ、**冷凍・冷蔵貨物の温度管理も可能**です。

4. 安全性・安定性

- ・船舶は振動も少なく、輸送時の振動による**荷崩れ、荷傷みは殆ど生じません**。

エコシップ・モーダルシフト事業の概要

■目的

エコシップ・モーダルシフト事業は、一般貨物の輸送に関し、海運事業者、荷主企業等が一体となって、環境負荷が少なく省エネ・CO₂削減に効果のあるフェリー、RORO船、コンテナ船、自動車船の利用を促進することにより、海上貨物輸送への一層のモーダルシフトを図ることを目的とします。

■事業内容

海上輸送へのモーダルシフトに貢献する荷主企業及び物流事業者を選定し、エコシップマークの使用を認めること等を通じて船舶を利用したモーダルシフトのアピールを行うとともに、特に貢献度の高い優良事業者に対しては、国土交通省海事局長の表彰を行います。

■対象航路

一般貨物輸送において、フェリー、RORO船、コンテナ船、自動車船等モーダルシフトの受皿となる航路(原則100km以上、除く沖縄航路、青函航路、離島航路)

■選定方法

フェリー、RORO船、コンテナ船、自動車船事業者(エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会 参加事業者)、からの推薦を基に、学識経験者、国土交通省を含めた「選定委員会」で選定

■選定基準

1. 海上貨物総輸送量/総貨物輸送量(トンキロ)が20%以上の輸送に船舶を利用した者(会社又は事業所・工場単位)。
2. 前年度の輸送実績に対し、海上輸送量のシェアが10%以上改善した者。
3. CO₂排出量を陸上輸送の場合と比べて10%以上削減した者。

■実施主体

エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会

エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会参加事業者一覧

フェリー事業者		RORO・コンテナ・自動車船事業者	
オーシャントランス(株)	瀬戸内海汽船(株)	井本商運(株)	トヨフジ海運(株)
川崎近海汽船(株)	太平洋フェリー(株)	川崎近海汽船(株) *再掲	日藤海運(株)
関西汽船(株)	(株)ダイヤモンドフェリー	近海郵船物流(株)	日本海運(株)
四国開発フェリー(株)	阪九フェリー(株)	栗林商船(株)	八興運輸(株)
ジャンボフェリー(株)	宮崎カーフェリー(株)	商船三井フェリー(株) *再掲	(株)フジトランスコーポレーション
商船三井フェリー(株)	(株)名門大洋フェリー	鈴与海運(株)	プリンス海運(株)
新日本海フェリー(株)		大王海運(株)	マロックス(株)

国土交通省海事局

■内航課: 〒100-8718 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3
Tel:03-5253-8626 Fax:03-5253-1643
http://www.mlit.go.jp

エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会

■事務局:日本長距離フェリー協会 〒102-0083東京都千代田区麴町2-3 麴町プレイス
Tel:03-3265-9685 Fax:03-3265-9684 http://www.jlc-ferry.jp
■日本内航海運組合総連合会 東京都千代田区平河町2-6-4 海運ビル
Tel:03-3263-4630 Fax:03-3263-4330 http://www.naiko-kaiun.or.jp